

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見えてきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	旭
学 校 名	古市小学校
学校長名	佐保 一紀

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・古市小学校では、第6学年 63 名

学校名 古市小学校

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科は、本校は正答率が71%で、大阪市より4%、全国より3.8%上回った。特に、A話すこと・聞くことに関しては正答率が76.7%であった。一方、B書くことに関する正答率は、30.2%であった。

算数科は、正答率65%で大阪市より3%、全国より2.5%上回った。特に、A「数と計算」は68.8%の正答率であった。Dデータの活用は、61.9%であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕漢字を書いたり、送り仮名に気をつけて正しい書き方を選択する、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題に関しては90%以上の正答率であり、知識技能に関しては定着していることが読み取れる。しかし、資料を元に読み取れることをまとめる問題「書くこと」に関しては、資料から読み取れる事実が何であるか考えることが難しかったり、面倒であったりということから正答率は30.2%であった。この問題の無回答率は15.9%と高く、回答を諦めていると考えられる。答えを導き出すために必要な手順を踏むことに苦手意識がある。しかし、物事を総合的に見て判断したり決断したりする際に大切な思考のステップである。この課題を解決できるように指導していくことが教職員の課題である。

〔算数〕計算処理能力以外にも、図形に関する知識理解もできていることが各設問の正答率から読み取れた。問題で示されている図形を違う図形にするために必要な角度を問われると、目の前の図形から、想像した図形で思考することが難しく正答率は38.1%と低い傾向が見られる。目の前にわかりやすく見える計算や図形に関しては正しく回答できるが、どのように思考したり、結果をまとめたり記述する問題にも苦手意識を持っている。資料課読み取れる事実を記述する問題では、47.6%の正答率で、無回答率が22.2%であった。

質問紙調査より

質問紙では、本校の91.9%の児童が友達関係に満足している。しかし、自分と違う意見について考えることが楽しいと感じる児童は74%程であった。学校生活を楽しむ一方で、国語・算数の学習に関して楽しいと感じている児童はいずれも70%近くで大阪市や全国と比較しても高い傾向にあった。学習で学んだことを他教科に生かしていると感じている児童は83%と高かった。自分自身の学習に関しての満足度は高いが、他者との意見交流を通して自分の考えを深められているかの質問に対しては70%は超えているが大阪市や全国と比較するとやや低い傾向にある。教科に関する結果から書く活動が苦手な傾向があったが、質問紙からも「物語文を読むときに登場人物について、物語全体を想像して読んでるか」に関して当てはまる児童が35.5%と大阪市、全国と比較しても低いことが分かった。学習に関する意欲は高いが、周囲と交流したり、考えを深めたり、想像力を働かせたりすることは苦手だと考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

本学年の児童は、自分自身の学習を深めたり広げたりすることが好きな児童である。自主学習ノートでは、自分の学びを展開できるので意欲的に自主学習に取り組む児童が多い。自分の学びを他者に交流したり、さらに良くするために友達から意見をもらいさらに自主学習の深まりを持たせることができれば、他者の意見を取り入れることへの抵抗感が低くなると考えられる。

また、教科を問わず資料からの読み取りや、必要なデータの取り出し方など、思考する前段階の整理し処理する能力を高められるように、どの教科でも「書くこと」に関する活動を積極的に取り入れていきたい。本校の研究教科でもある道徳科においても主体的に思考し、他者との交流を通して自分の考えをさらに広げ深めていけるような学習活動を進めたい。